

様式1 令和4年度 山梨県立甲府東高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針		1 自ら考え、自ら判断し、自らの考えをもって主体的に行動しようとする生徒 2 他者を尊重し思いやり、他者のために動こうとする生徒の育成
本年度の重点目標	1 「心に灯をともし」教育の実現のため、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をとおして特色ある教育活動を展開し主体性を育むとともに、教科内における指導法等の情報共有の促進及び個に応じた指導の充実を図る	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 「心に灯をともし」教育の実現のため、総合的な探究の時間・課題研究・探求サブリを中心とする探究活動・体験活動の充実を図るとともに、成功体験等により、自己肯定感・自己有用感の醸成に努める	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 「心に灯をともし」教育の実現のため、学習活動、部活動、学校行事等それぞれの機会において、「育てたい力」を意識した指導を行うとともに、教育活動のすべてに全力で取り組むことができる環境づくりに努める	C 不十分である。(4割以上)
		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立甲府東高等学校校長 中村 尚志

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価 (3月23日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	「心に灯をともし」教育の実現のため、 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をとおして特色ある教育活動を展開し主体性を育むとともに、教科内における指導法等の情報共有の促進及び個に応じた指導の充実を図る	① 管理職授業参観や相互授業参観を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICT活用を含めた授業改善の促進を図る ② 自ら考え深め、考察する力の育成のために、主体的活動や対話的活動ができる場を設定する ③ 教科内で指導方法やICT活用等について情報共有を行い、デジタルデータ等の共有を図り、個々の教員の負担軽減を図る	授業参観票 教科会議での振り返り 授業アンケート レポート・プレゼンの自己および他者評価 授業アンケート レポート・プレゼンの自己および他者評価	B	・自発的に学習に取り組む姿勢の醸成の必要性と課題等、提出物の遅延や未提出の生徒が見受けられる。 ・継続して「気配りのできる生徒の育成」に取り組む必要性を感じる。
2	「心に灯をともし」教育の実現のため、 総合的な探究の時間・課題研究・探求サブリを中心とする探究活動・体験活動の充実を図るとともに、成功体験等により、自己肯定感・自己有用感の醸成に努める	① 総合的な探究の時間やLHRを活用し、自分の考えを整理し、グループで意見を交換する等の協働活動をおとしてコミュニケーション能力や協調性の醸成を図る ② キャリア教育推進のための学校行事(ミニ大学・職業人講和等)の継続・発展を図る ③ 生徒の自主的な探究活動をサポートする「課題研究」や「探求サブリ」の時間の充実を図り、3年間を見据えた「総合的な探究の時間」を構築する ④ 各種行事の運営に当たっては、学年や分掌等の協働体制を構築し、担任等の負担軽減を図る	レポート評価 教員・生徒アンケート 生徒アンケート 活動実践報告 計画・実施について検証 教員・生徒アンケート 学校行事アンケート	B	・授業改善について、観点別評価を踏まえ、BYODの活用を含め、組織的な取組を継続していく。 ・総合的な探究の時間の運営が円滑に行われるよう配慮した。コロナ禍で、予定が変更になることも多かった。1名の教員が40名の探究活動を把握するのが難しかった。 ・コロナ禍で実施できなかった行事等を社会の状況を踏まえ、アフターコロナとして実施を検討する。安心安全の確保が重要である。
3	「心に灯をともし」教育の実現のため、 学習活動、部活動、学校行事等それぞれの機会において、「育てたい力」を意識した指導を行うとともに、教育活動のすべてに全力で取り組むことができる環境づくりに努める	① 生徒が主体的に計画する行事の活性化を図ることにより、帰属意識の醸成と互いに支えあう集団を育成する ② 部活動や学校行事等に積極的に参加させ、充実感や達成感を体感させることにより、豊かな人間性の育成を図る ③ 交通マナーの向上や挨拶の励行等について継続的に指導することにより、社会性の向上を図る ④ 部活動の運営や指導に当たっては、正副顧問や担当者間の連携に努める	学校行事アンケート 生徒アンケート 教員・生徒アンケート 教員アンケート	B	・広く社会や世界に目を向ける意識を高め、多様性を認め合い多様な人々と協働に向けた指導の必要性を感じる。 ・生徒指導に関して、組織的な指導を推進する。
4					
5					

学校関係者評価	
評価	意見・要望等
4	・「課題が多い(生徒の意見から)」こと「主体性を育む」ことは相反するよう気もしますが、課題の内容にもよると思います。課題の内容や出し方にも主体性を育てる工夫をすることで生徒の負担感が減少するかもしれません。生徒たちが自ら課題に対する改善策を考え、アイデアを出し合うのも主体性を育むチャンスかもしれません。・授業公開の様子から、各先生方が様々な工夫をしながら授業をされている様子が伺えました。またICTを活用した授業は、情報収集や共有などに加え、視覚からもわかりやすいと思いました。生徒一人一人がICTを使いこなし、主体的に考え、グループワークなどで対話しながらまとめていく様子は、とても深い学びに繋がっていると感じました。 ・そもそも自主的に学ぶ意欲の高い生徒が入学してきていると思うので、その意欲を活かせるプログラムを充実させて、学校としての強みにしていただければと思います。
4	・校長先生のお話にあった「学校紹介を生徒が主導し、先生方が見守った」という言葉から、本当に良い教育をされていると感じました。きっと先生方の事前のご指導により、生徒たちは信頼と責任感から実力以上の力を発揮できたのだと思います。主体的・対話的で深い学びを実践されていると思いました。また自律の精神だと感じました。 ・実物利用防止に関する講演会の実施、ジェンダーギャップ是正に向けた取組などを通して、社会的課題に生徒が関わっていくことは、視野を広げ、規範意識の醸成に大いに役立つものと思います。学校生活でも新たな気付きや課題発見のきっかけに繋がると思うので、今後も様々な角度から学びの機会を作っていくってほしいと思います。
4	・秋の文化祭を拝見し、自主的に主体的に運営にあたり、スムーズに進行している生徒たちの姿が印象的でした。また、生徒たちの学校説明会での様子やルコへの義援金の申し出などについて話を伺い、学校の活性化や社会貢献への意識の高まりと、それを尊重しサポートする教員の絶妙な距離感に感心しました。 ・山梨ダルクの施設利用による講演があったということですが、極めて有意義であったと思います。単に実物利用防止という生徒指導上の観点のみならず、実社会において厳しく、時に理不尽ともいえる現実を苦悩した体験やそうした言わば社会的弱者に対する公的な救済施策が身に沁み、それを生徒が自身で感じることも、それがそれぞれの自己探究につながる良い機会ではなかったかと思えます。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。